

学校名：けせんぬましりつからくわちゆうがっこう 気仙沼市立唐桑中学校

校長名：村上徹也

所在地：宮城県気仙沼市唐桑町北中130番地

電話番号：0226-32-3144

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、昭和 22 年創立、宮城県の最東端に位置する唐桑半島の中央に位置している。全校生徒は 193 人、クラス数は 10 学級であるが、少子・高齢化が進み、年々生徒数は減少の一途をたどっている。本地区は全国的にも有名な遠洋漁業の基地であるとともに、沿岸漁業、養殖漁業も盛んな典型的な漁業の町であったが、漁獲制限や減船等の影響で、水産業に従事する若年層は激減している。

生徒は、全体的に明るく純朴である。教師の指導も素直に聞き入れる姿勢があり、問題行動はほとんどみられない。諸活動には誠意をもって当たり、一生懸命取り組むことができる。部活動は全員加入制で、ほとんどの生徒が運動部に加入している。部活動数は男女合わせて 11 あるが、自分が経験したことのある種目を指導している教員は 3 名のみである。今年度は外部指導者派遣事業を活用し、地域で活躍しているスポーツ指導者 3 名から部活動への指導協力を得ている。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	3	2	2	3	10	
生徒数	男	42	25	30	2	99
	女	30	22	39	3	94
	計	72	47	69	5	193

教員数 17 名（保健体育科 2 名）

運動部活動の状況

実施運動部名	部員数			外部指導者数
	男	女	計	
野球	40		40	
バレーボール		13	13	1
バドミントン		21	21	
バスケットボール	22	14	36	1
ソフトテニス	17	20	37	
卓球	8	15	23	1
剣道	11	10	21	

II 活用事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- 専門的な知識や技術をもつ経験豊かな外部指導者の指導により、競技力の向上が図られた。
- 外部指導者が唐桑総合型地域スポーツクラブ「カラット」においても指導者として活躍していたことから、部員も「カラット」に入会し、地域の異年齢の人と一緒に練習する機会が増え活動の幅に広がりが見られた。
- 部活動顧問が外部指導者から具体的な指導方法を学ぶことによって、自らの実技指導力の向上が図られた。
- 外部指導者と顧問が部活動の運営についての話し合いに十分時間をかけたり、機を逃さずこまめに話し合ったりしたことから、一貫した指導を行うことができ、生徒も迷うことなく練習に専念できた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

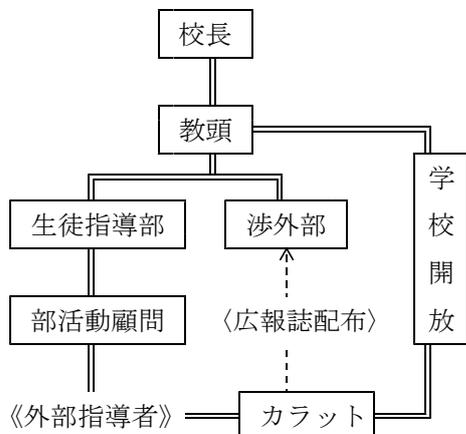
地域スポーツ人材（外部指導者）を活用した運動部活動の在り方

(2) 研究テーマ設定のねらい

顧問教諭と外部指導者との連携により、生徒の競技力及び顧問教諭の実技指導力の向上を図る。

また、総合型地域クラブとの連携の在り方を考える契機とする。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成 22 年 度	H22. 4. 3	生徒指導部会で、外部指導者依頼の検討
	H22. 4. 24	外部指導者との顔合わせ顧問・外部指導者会議
	H22. 5	外部指導者も交えての各部保護者会(カラット入会案内)全校体制での部活動始動 学校部活動(週平均5.5回) カラット活動(週平均2回) 必要に応じて、顧問と外部指導者の意見交換等
	H22. 6. 21	部活動担当がカラット事務局から聞き取り調査
	H22. 9. 21	カラットに関する調査を唐桑中学校全学年で実施し、参加状況の把握を行った。

2 活動及び活用事例

(1) 「平成22年度運動部活動外部指導者派遣事業(宮城県教育委員会)」

① 目的

運動部活動において教員の技術指導の補完を行うため、学校と地域が連携し、地域に在住するスポーツ指導者やスポーツ経験者等を外部指導者として招へいする。外部指導者や地域総合型クラブと連携・協力していくことによって、運動部活動の充実及び教員の資質向上を図る。

② 具体的な指導方法や取組の様子

ア 唐桑総合型地域スポーツクラブとの連携

唐桑総合型地域スポーツクラブ(以下カラット)は、「会員及び地域住民に対し、スポーツ・文化芸術・レクリエーション・生涯学習等の事業を通し、青少年の健全育成や地域コミュニティ振興を図り、地域社会の活性化に寄与すること」を目的として平成17年に創設された。対象とするのは気仙沼市唐桑地区住民で約7,700人、現在265名が会員登録をしている。活動プログラムはバレーボールやグラウンドゴルフなどの定期活動、釣り大会やスキー教室などの各種イベント、青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団等への活動支援、地域内子供会育成会や中学校部活動等の関係団体との連携などである。毎月広報誌「カラットひろば」を唐桑地区全戸に配布するなど、広報活動にも力を入れている。

唐桑中学校の外部指導者3名の内、2名がカラット設立当時から指導者として活躍している人物で、カラットの中学生を対象としたスポーツ教室においても中心となって指導に当たっている。このことから、その部活動に所属している中学

生の多くは、カラットに入会し、中学校部活動の枠を離れても、外部指導者のもとでスポーツを楽しんでいる。

調査から、現在カラットに入会している唐桑中学校の生徒は45名（加入率23.3%）である。入会の時期・種目・活動回数はそれぞれ異なるが、どの生徒も、「技術や体力が向上した」、「異年齢の人たちと交流でき、付き合いの幅が広がった」、「礼儀やマナーが身に付いてきた」、「余暇を充実させることができた」といった回答を寄せており、カラットでの活動に充実感を感じている。



中学生・一般を対象としたバスケットボールクラブの活動（日曜日18:30～20:30）

外部指導者の声掛けにより、土日の学校部活動に一般会員が協力してくれることも多くあり、部活動の活性化が図られている。



中学校の部活動に高校生・社会人が協力（男女バスケットボール部の練習場面）

イ 外部指導者と部活動顧問の連携（女子バスケットボール部の事例）

唐桑中学校の女子バスケットボール部は部員数の減少によりしばらく休部状態であった。生徒・保護者の要望から平成17年度から活動を再開した。カラットが設立された年と重なり、その頃から、現在の外部指導者と部員たちの交流は始まった。平成20年度、前顧問の異動により、バスケットボール指導経験の全くない者（現顧問）が顧問となったことが大きなきっかけとなり、正式に外部指導者の要請をし、快諾していただいた。

指導する際に気を付けたことの1つ目は、指導方針に一貫性をもたせるということであった。部活動が本格始動する前に、外部指導者と顧問が指導の方向性を一致すべく、十分に話し合いを行った。幸い、外部指導者の方は部活動が生徒指導面に大きく影響するといった学校現場への理解が深く、「生徒が心身両面で成長できる部活動」を目指していきたいという顧問の願いを十分理解していただいた。指導者同士の横のつながりを強化することで生徒たちは戸惑うことなく、部活動に集中することができた。保護者会においても二人から方針を説明し、保護者からの協力や理解を得ることもつながった。

2つ目は、役割分担の明確化である。専門的な技術指導は、土日の練習やカラットでの練習会で外部指導者が中心に行い、部活動の計画や平日の練習（体力づくりや基礎練習）、他校との連絡調整は顧問が担当した。役割分担を明確にすることによって、遠慮や行き違いといったことがなく、指導内容にも一貫性が図られた。

③ 成果・課題

【成果】

ア 部員の競技力向上

外部指導者からの専門的な技術指導により、一つ一つのプレーが確実に上達するなど、生徒の競技力が向上した。現顧問が引き継いだ当初は、戦術面が敗因となる試合も少なく

なかったが、ミニバスケットボール経験者が全くいないながらも、今年度は地区のシード校に名を連ねるまでの成長を遂げた。

イ 顧問の指導力向上

現顧問は競技や指導経験が全くなかったわけだが、外部指導者の指導の様子を間近で見たり、簡単な練習に参加することで、練習メニューの組み方、試合の進め方、技術面でのアドバイス等を学び、自分自身の指導力を向上することができた。



スクリーンプレーの確認場面

ウ 行動範囲の広がり

外部指導者が橋渡しとなって生徒たちがカラットに入会したことが、競技力の向上以外にも様々な効果をもたらしている。幅広い年齢層の一般会員の方々と一つのボールを追う表情は、普段の学校生活とは一味違っている。異年齢集団での活動経験が極めて少ない現代っ子たちにとって、カラット会員の方々に温かく見守られながら交流を深めていくことは貴重な経験となっている。



社会人による休日部活動への協力



カラット仲間として、中学生が夜間練習に参加

【課題】

少子化に伴い、学校部活動が縮小された時に、カラットとうまく連携が図られるような土台を今のうちから確立しておかなければならないことである。小学校での経験を含めると、学校全体の約半数がカラット所属経験があることになるが、カラットの実態を知る中学校教員は予想以上に少ない。学校教職員がカラットの活動内容を知ることによって、学校・地域が一体となって部活動の活性化、ひいては地域の青少年の健全育成活動にかかわっていけるような骨組みを整えていきたい。

3 今後の展望

- (1) カラットとの連携の在り方を職員会議等で検討することで共通理解を図り、生徒・教職員・カラットのより良い関係づくりを目指す。
- (2) 外部指導者との連携を図りつつ、顧問自身が指導力向上を目指すことを忘れない。外部指導者の全面協力頼みの部活指導に陥らないようにする。
- (3) 顧問や外部指導者が変更になった際の引継ぎをスムーズに行っていく。
- (4) 少子化等の影響でチームを組むことができなくなることを視野に入れた、カラットを中核とした唐桑地区生徒での合同チーム編成。